



〈鶴ヶ島市立藤中学校だより 第2号〉

学校教育目標

ともに学び、未来を拓くたくましい生徒の育成

藤中だより

保護者・地域に信頼される学校を目指して

〈目指す生徒像〉

- よく考え工夫して学ぶ生徒(知)
- 人と自分を大切にする生徒(徳)
- 心と体を粘り強く鍛える生徒(体)

令和8年5月1日 校長 竹田 聡

新緑の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、ご多用のところ、4月21日(火)の小中合同引渡訓練、4月25日(土)の授業参観・学級懇談会に多数のご参加をいただき、ありがとうございました。

5月は体育祭に向けて、学校全体で取り組みます。今年度も学級編成の都合で団対抗はかないませんが、5人の団長を中心に熱い活動が繰り広げられます。お子さんが体育祭で信頼関係が築かれ、大きな成果が上げられるように、ご家庭でもご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。

<4月14日(火) 教育委員年度当初訪問>

鶴ヶ島市は、教育委員が市内の全ての小中学校を訪問しています。今年度の学校経営等について私から説明した後、教育委員から指導助言をいただきました。

1 令和8年度の学校経営方針の策定まで

(1) 生徒・学級数

| | 1年 | 2年 | 3年 | はばき | 合計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 生徒数 | 160 | 150 | 162 | 21 | 493 |
| 学級数 | 5 | 4 | 5 | 3 | 17 |

昨年度より生徒数は26名減、1クラス増です。

(2) 教職員数 (非常勤を含む)

県費34名(教員・事務・SC) 市費16名

非常勤を含め16名の市費職員は、近隣市町と比べて、とても手厚い状況です。

(3) 教育施設

広い校庭と大きな体育館は、生徒が伸び伸び活動できる環境が整っています。また、体育館冷暖房(R5)、東・中央トイレ改修(R7)が行われ、健康衛生面の心配事が軽減されています。

(4) 昨年度の評価

① 学校運営協議会

- 教職員・生徒ともに肯定的評価が高い。
- 学級が楽しいと感じている生徒も多い。
- ・「書く能力」とICTの利活用のバランスを考えて、学力向上を図る。
- ・藤中の教育を地域に発信する必要がある。

「概ね良好な状況であり、よい実践を継続してほしい。」との意見をいただきました。

② 教職員が生徒に身に付けさせたい資質・能力

- ・学力(特に基礎・基本) ・思考力 ・判断力
 - ・非認知能力 ・自己調整力 ・やり抜く力
 - ・試行錯誤する力 ・精神回復力 ・学び続ける力
 - ・コミュニケーション能力 ・自主性 ・自律性
 - ・協調性 ・自他を大切にする心 ・自治力
- 教師が「率先垂範」を心がけ取り組みます。

2 学校教育目標

ともに学び 未来を拓く たくましい生徒の育成

校歌から令和4年度に策定しました。

3 目指す生徒像

- よく考え工夫して学ぶ生徒(知)
(知と未知・自分の学び方を見つける)
- 人と自分を大切にする生徒(徳)
(メンタルヘルス・折り合いをつける)
- 心と体を粘り強く鍛える生徒(体)
(挑戦・緊張と失敗を糧にする)

学びや挑戦に粘り強く取り組んだり、人との関わりを通して、「知・特・体」がバランスよく育つことを目指します。

4 目指す学校像

- 授業・行事・部活動を柱に学ぶ喜びのある学校
 - 場にふさわしい規律のある学校
 - 学習環境が整い、清潔で安全な学校
 - 家庭・地域と連携協力し、生徒を育てる学校
- 「当たり前」のことが「当たり前」にできて、メリハリのある学校を目指します。

5 教育委員からの指導・助言

- ・藤中に誇りをもっている生徒や卒業生が多くいるので、よい教育実践を継続する。
 - ・教職員のフットワークが軽く、明るく勢いを感じるので、ベクトルを揃えて取り組む。
 - ・「イジリ0」は、大人も気を付ける必要がある。
 - ・ホスピタリティ(もてなしの心)が求められる時代であり、学校ならではの人の関わりを大切にしてほしい。
 - ・学校の重要課題は「学力」をつけること。「確かな学力(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学ぶ態度)」を着実に身に付けさせる。
 - ・校長の経験やよい実践を教職員に広げる。
- 学校は毎年1/3の生徒と教職員が入れ替わります。昨年度を参考にして、本年度が充実した1年となることを目指し、取り組みます。

<生徒朝会 委員長・団長紹介>

4月21日(火)の生徒朝会で、前期委員長と体育祭団長の紹介がありました。

前期委員会委員長

| | | |
|----|----|------|
| 学級 | 1年 | 2年 |
| | 3年 | |
| 体育 | | 保健 |
| 給食 | | 環境福祉 |
| 図書 | | 放送 |

体育祭 団分け・団長

| | 1年 | 2年 | 3年 | 団長 |
|----|----|----|----|----|
| 赤団 | 2組 | 1組 | 1組 | |
| 桃団 | 4組 | 3組 | 3組 | |
| 青団 | 5組 | | 4組 | |
| 黄団 | 3組 | 4組 | 2組 | |
| 緑団 | 1組 | 2組 | 5組 | |

<4月28日(火)学校朝会校長講話「心得」(抄)>

「心得」について話しました。

今日は「心得」について話します。「心得」は「心に得る」、物事の本質を理解した上で行動指針として身に付ける状態を示します。歴史的には、武士道や江戸時代の教育書で頻繁に使用され、行動規範や道徳心を表す言葉として用いられてきました。

物事や活動を充実させるための「心構え」と考えるとよいと思います。例えば、環境福祉委員が提案する「無言清掃」は、無言が大切ではなく、清掃に一生懸命取り組めば、話す必要はなくなるはずです。授業の「2分前着席」も、学習を充実させる「心得」になります。

私の「心得」は、「朝活」です。朝、早めに学校へ来て、学校の周囲の点検を兼ねてジョギングをしてから、昇降口の掃除をしています。その後、着替えをして「今からは校長だ。」と切り替えて、8時に昇降口を開けて、「おはようございます。」と皆さんを迎えています。

「心得」の基本は、気持ちと環境を整えることだと思います。これから自分はどの立場で行動するのか、何をするのか、効率を上げるために服装や身の回りはどうなっているかなど、準備ができている人の方が成果を上げて、成功していると思います。具体的には、「心得」を切り替えのツールとして、集中力を上げています。

中学校では、クラス・学年・学校全体、授業、清掃、委員会、行事、部活動など様々な活動があります。それぞれの活動を充実させるコツと「心得」が結びつくと、効果を実感して自然にでき、続けられるようになると思います。そして、一つでもうまくいったら、他にも広がっていくことで成果も増えていきます。「心得」を活用して、成功や達成感につながることを期待しています。

<藤中学校の部活動について>

部活動保護者会では全体会がありませんので、この場をお借りして方針等をお伝えします。

1 はじめに 「生涯学習」と部活動

生涯学習では、公民館や体育施設等で、スポーツや文芸に親しみ、健康的で心豊かな生活を過ごすことが求められます。

部活動は生徒が中学校や高校を卒業後、社会人あるいは仕事を退職してから、地域のスポーツや文芸との関わり方を学ぶ場と考えています。

2 本校の活動方針

部活動は、生徒の主体性や協調性を育める場です。そのために、授業をしっかり受け、規則正しい生活をするのが大切です。ご家庭でも、お子さんが部活動の時間をつくるように支援してください。また、目標や計画づくり、自己管理など将来に役立つ経験を期待しています。勝つことが目的になったり、負けたときに否定的な言葉をかけたりしないようにお願いします。

3 複数顧問制と活動時間の確保

複数顧問により生徒の活動の機会を確保しています。「鶴ヶ島市部活動ガイドライン」に則り、平日は週4日で2時間程度、土日はどちらか休みになります。ただし、決められた大会(公式大会)前の期間は、例外的に朝練習と土日両日の練習があります。なお、朝練習は7時30分からです。

7時15分以降に登校するようにお願いします。

4 「緊張」と向き合う

部活を通して、「緊張」を体験してほしいと考えています。レベルは関係なく、初めての大会では緊張するものです。大会以外でも、入試や面接など、緊張することがあります。緊張した状況で力を出し切る難しさを学び、日々の練習や生活を大切にしてほしいと思います。

5 部活動の休部・廃部規定について

藤中学校では、生徒・教員数の減少を踏まえ、休部・廃部を検討します。藤中生単独でチームが構成できない状況(合同チーム)が3年続いた場合、次の年度から募集を停止を検討します。

6 過渡期を迎え

部活動は地域移行を含め、過渡期にあります。国や県、市から方針や指導がありましたら、その都度お知らせします。

7 終わりに

私は中学校で始めた卓球を今も続けています。部活動と社会人チームを通して、たくさんの出会いと多くのことを学び、心身共に成長できました。この経験を踏まえ、部活動を応援します。